

歴史探訪

クラブ! 其の148

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局3635
FAX 22局3811

もっぴつつの文化遺産 屋根瓦

私は建物に使われる瓦が好きです。屋根に葺かれ、整然と並んでいく瓦。本来、防水の機能のため考えられたのですが、その姿は機能美だけでなくデザイン的にも美しいと感じます。時代を経て、落ち着いた色となった屋根瓦にいともしさも感じます。

渥美半島の伝統的な瓦は水が浸透しないよう炭素を吸着させた燻し瓦です。地場産業として盛んだったセメントを使用した瓦が作られた時代

もありました。

寺・城・館に使われていた瓦は、明治以降、一般の住宅などにも普及し、それぞれの村に必ず瓦屋があるほどでした。しかし、今では住宅の多様化も進み、さまざまな

素材の屋根材、瓦の種類が増えたことで、昔ながらの瓦を生産することも葺くことも減ってしまいました。

そんな数少ない瓦を生産している、知り合いの瓦屋さんと話をしていたところ、地方ごとに瓦の様子が違うことを教わりました。その瓦屋では、渥美半島の強い風に耐えうる構造や材質でつくっているそうです。地域の風土に合った住環境を工夫するのは当たり前なのですが、その思いに感激しました。

ところで、お寺には屋根の改修や建替えのために降ろされた大きな鬼瓦が境内に飾ってあることがあります。

写真は西光寺（西神戸町新美）の境内にある鬼瓦です。表面が剥がれ落ちてしまっているところもありま



▲西光寺にある鬼瓦

すが、「癸天保四年巳年

六月□□ 長嶋□□衛門孝道代」と瓦に文字が刻まれています。長嶋と名乗る人は田原藩の瓦師で、田原城をはじめ藩領内の寺院の瓦を作っていました。

屋根の一番高い棟の両端にある鬼瓦は、防水機能や装飾ばかりでなく、願いがこめられています。鬼瓦の面に「水」が刻まれている場合は防火の願い、家紋の場合はその建物を建てた家族を含めた組織のシンボルとしたものです。

瓦にはこの田原市の風土によって形作られた技術やデザインがありま



▲江戸時代の塀に使われていた瓦。ここにも長嶋十左衛門の名がある

す。民家や寺社の屋根に葺かれた瓦は、この地域の原風景となる立派な文化遺産といえますね。

(増山)

今月の「表紙」

▼映画を見るのが好きです。でも時間があると、本を手に取りたくありません。頭の中だけで展開する物語は、与えられた音や映像を受け取るよりも、ずっと鮮明に感じられます。中央図書館にある約30万冊の本。それぞれの本に広がる、それぞれの世界。どの一冊を手にするのかは、偶然なのか必然なのか。「運命の一冊」に出会える日は、いつの日か来るはず。(M)

【表紙の写真】お気に入りの本と共に【中央図書館】